

平成三十一年正月吉日初版作成

過去はもうない

高嶋 善三郎

目 次

- 今の自分は神の中にある・・・・・・・・・・ 3
- 瞬時に神（本心）の中に入る・・・・・・・・・・ 4
- すべては成就する世界を現わす・・・・・・・・・・ 5
- 神人の役割・・・・・・・・・・ 6

お 願 い

より分かりやすくするため、ご感想があれば、お聞かせください。例えば、この点について分かりにくいとか、どの点が心に響いたとか、新しい疑問があるなど、何でも結構ですので、お聞かせください。また、送られてきた資料が次回以降不要の場合は、次のケータイのSMSか、アドレスにご連絡ください。

(ケータイ) 09033466619

(アドレス) zensan@peach.ocn.ne.jp

今の自分は神の中にある

過去はもうないということを書き先生は言われていますが、私たちは、どのように心の整理をしたらよいか、説明くださいという質問がありました。これに対する回答を整理します。

この質問に対する回答を整理するにあたり、『今の自分は神の中にある』と『すべてが成就する世界を現わす』（拙書）からヒントになる文章を見てみましょう。

「あれは運命だ、これも運命だ、という人がいます。大体の人は、自分が運命の流れの中に入ってしまっただけで、その流れに左右されているようです。

ところが本当は、自分というものと運命というものは違うのです。運命というものは、前生を含んだ過去において作ったものが、今現れて消えてゆく姿だけのものなのです。

運命それ自身が今の自分ではないのです。たとえ運命がよかろうと悪かろうと、今の自分のものではないのです。すべて過去世からの想念行為が現れては消えてゆく姿なのです。ですから運命環境が悪くても、それは今の自分が悪いからではない。また運命が素晴らしくよくても、それは今の自分が善いから、えらいからというわけ

ではない。それはすべて過去世から想念行為の蓄積が、現れて消えてゆく姿なのです。

ですから運命や環境が悪いから、といって今の自分を嘆き悲しみ、責め卑下することはありません。また運命環境がよいからといって、感謝こそすれ、自惚れたり威張ったりしてはいけません。それはみな消えてゆく姿なのです。

では今の自分はどこになるのか。今の自分は神の中にあるのです。**神の生命と全く一つの個性をもった永遠の生命**なのです。そして現れてくるものはすべて消えてゆく姿。

この信仰に徹すると、生き死の恐怖不安に扱われなくなり、生き続ける生命がある、という不動心を会得できるのです。

（『如是我聞』73ページ187）

ここで過去の自分と今の自分を区別して説明されています。過去の自分について、自分の運命、善きものであろうが悪いものであろうが、即ちすべて過去世からの想念行為（過去世から現在までに自分が発した想念行為）が現れては消えてゆく姿と説明されています。

そして一方今の自分については、その運命の流れの中に生かされていますが、同時にすべてを創造できる神（本心）の中にあるといわれているのです。

従来の流れに沿って、想念行為をすれば、従来の運命を続け

ることになります。一方今の自分は神（本心）の中にあると意識していけば、生き続ける生命がある、という不動心を会得できると言われています。

もう少し別の視点からみてみましょう。

五井先生によると、人間には、二つの心があると言われていきます。一つは分別する心であり、もう一つは本来心であります。

分別する心とは、輪廻転生の流れ（貧老病死の苦界）をつくりだしてきた、眼で見、耳で聞き、想いで分別し、認識しようとする心、善悪を判断しようとする心です。一方本来心とは、生き続ける生命である、即ち無死無生の心、空の底にある無限の心と等しき心であり、内なる神（本心）です。前者の分別する心によって創り出された世界は仮的存在であり、時が来れば、消え去っていきます。それに対して、後者は、永遠に生き続ける生命で、いつも、感謝と喜びに包まれ、必要に応じ叡智や能力や愛が溢れてくる存在なのです。

この輪廻転生の世界から解脱するためには、これまで幾転生を繰り返して分別する心しかないと思ってしまう私たちにあって不慣れなことですが、守護の神霊の助を借りて本来心の中に入り続けることです。そうすると、本来心の放つ無限なる光の中に、分別心とそれによる暗黒想念は時と共に、自ずと消えてゆき、感謝と喜びに輝く自分が現れるとされているのです。

以上から、過去はないということを整理しますと、過去の事実関係がなくなるのではなく、暗黒想念を生み出す分別心の本質を知り、暗黒想念の消えてゆく姿に把われないことであると云えます。

瞬時に神（本心）の中に入る

2018年12月2日の富士聖地での行事で、昌美先生が五井先生のご神示として次のように述べられました。

「神聖目覚めの印を組む者には過去はない。過去は消え去った。古い記憶が甦ってきたとしても、それはもはや全く過ぎ去ってしまったもの。焼きつくされる過程で生じる灰燼（はいじん）や黒煙に過ぎない。その煙には何一つ力もエネルギーもない。それを想念の力でわざわざ引き戻すな。神聖復活目覚めの印によって過去世の恐れ、おののきもすべて消え去り、光となったのである。おめでとう神人たち、そしてありがとう。みなのおかげでこの世界は甦る。平和な世界、神聖なる世界が再び訪れようとする。自分の体験を多くの人々に伝えることによって、人類は納得し、世界は完璧に平和なる。」

神聖目覚めの印を組んでいるときは、宇宙神の光を自分の肉体を通してこの肉体界に降ろしているので、過去の想念行為の影響を受けることはないと言われているのです。

しかしながら、一方過去について想念の力でわざわざ引き戻すなど言われています。このように引き寄せている状況は、自分の意識が本来心の中から出てしまって、分別する心の世界の中にさらされてしまった時に起こる現象なのです。

このような状況をさけるには、必要に応じ、印や統一によって、瞬時に神（本心）の中に入ることができるよう、常日頃から修練しておくことが不可欠です。

このように修練していると、ふとしたことから（過去世の恐れ、おのきの）古い記憶が甦ったとしても、瞬時に本心の中に入ることにより、消えてゆく暗黒想念の影響を受けることがないのです。

また、日常生活のなかで、人間関係や仕事上のトラブルが起こっても、瞬時に神（本心）の中に入ることができるようになれば、それらを冷静に受け止めることができ、自分や他人を傷つけあうことなく、解決する叡智が溢れてくるのではないのでしょうか。

すべては成就する世界を現わす

過去がなくなると、どのような心境になるかについて、昌美先生は次のように言われています。

『白光誌』2010年3月号「神人とチャクラ」において、昌美先生は、次のように言われています。

私たち神人は、一筋の究極の光を降ろすご神事を通して、叡智のチャクラを開くことができたと宣言されました。

チャクラが正しく開いたときに現われるのは、予知能力ではなく、また予言する力でもない。自らの目を通して神を見、また自らの耳を通して神の声を聞くことができ、自らの肉体もすべて整っていることが判るようになるのである。さらに、神とつながるチャクラが開くと、神のバイブレーションがあることが判るようになり、感覚が微妙になり、風景も輝いて美しく見えるようになり、また音も味も、妙なる美しいものが感じられる。そして、自分たちだけが素晴らしいのではなくて、すべての生きとし生けるものが全部つながっていることが実感できる。三次元世界にいながらにして、神界に生きられるようになるのである。

一瞬にしてすべてが神そのものとなってしまえば、神の心が自分の心として判り、神のなさしめることが自然に判るのである。聴こえてくるものは「絶対に大丈夫。すべてが光に包まれているし、人類の行方はすべて一つである」という神の言葉であり、そして自分もいつの間にか、自らの言葉を通して神の言葉——人類が本当に行き着く美しい場所を、知らないうちに語っている。即ち神人たちは自分自身の姿を通して究極の真理を示すのである。「自分自身が完璧に神とつながって一光なのだ、すべては一つなのだ、すべては破壊されることなく、神様の中に包まれて生かされているのだ」ということを実感し、それぞ

れが神人としての輝かしい生き方を示すことを示すことによって、世の中が自然に変わってゆくのであると言われています。

これらは、消えゆく過去に把われることなく、永遠の生命の覚醒、即ち不動心を自分のものとしていく上で、私たちの目指す心境が具体的に解説されており、大変役に立つお言葉です。

神人の役割

私たちは、何故この肉体界に生まれてきたのでしょうか。教えてくださいというご質問がありました。

それについて整理してみましよう。

第一の目的について見てみましょう。

それは、自他一体感、愛を深めるためと五井先生は言われています。もともと私たちは、宇宙神から分かれてきた分霊であり、常に喜びと感謝に包まれ、言霊によりお互いを生かす便利なものを自由自在に創造している存在なのです。昌美先生著『つながり合う世界』によりますと宇宙空間（天地）を自由に行き来し、誰もが無限なる能力、叡智を出し合って、自らの言霊より地上に善いもの、役に立つものを次々と作りだしていました。各々が個性や特性を生かしながら、発明する感動、創造する喜びに浸り生きていたのです。

それが何故その記憶を失くして、この不自由極まりない世

界に生まれてきたかというところ、神（直霊）への思い（感謝）を疎んじた結果、直観力を失い、五感六感に感じるもののほかは、何も無いというさかさまな考え方や自由自在な神霊である人間を、肉体や幽体という限定された器的、物質的なものと夢のような思い方をしてしまったことによりますが、一方喜びと感謝に包まれ、言霊によりお互いを生かす便利なものを自由自在に創造している存在の有り難さを実感するためとも言えます。

わかり易くするため、たとえ話で説明させていただきます。素晴らしいシェフによって作られた、おいしい料理を毎日食べていると、その料理になれて、その有難さが分からなくなり、ところが、別の未熟なシェフによってつくられた料理を食べて、初めて今まで食べていた料理のうまさ気づくのです。それと同じなのです。

思ったことが思うようにできない世界に降りて来て、初めて思ったことが思う通りに出来る世界の有り難さを実感できるのと同じなのです。そして、自他一体感、愛を今まで以上に深めることが出来るのです。

思うようにいかない時、悲しい時、苦しい時に今自他一体感、愛を深めさせる体験をさせていただいているのだと、かみしめることにより、我即神也の自分（永遠の生命）をよみがえらせるのに、大きな力になるではないでしょうか。

ただし限りなく所有したいという物欲、際限のない性欲や食欲、他者を支配したいという権力欲に把われてしまった人たち

は、まず私たち人間は何の目的をもって生まれてきたか、霊的な視点で捉え直し、これらの欲を手放さない限り、輪廻転生の世界からの解脱は、はなはだ難しいと言えます。

第二の目的は、現在地球がアセンション（次元上昇）の時期を迎えており、世界人類が苦痛なくアセンションできるようにするために、私たち神人は、志願して降りてきているのです。

アセンションとは、宇宙心の調和の心が、次々と星々の世界を調和した世界に仕立て上げており、今回地球がその順番になって、地球人類を高次元に上昇させ、進化させようとしているのです。

あらゆる波動の世界を進化させてゆくご計画の宇宙神のみ心である進化というのは、その波動圏に住みながら、神のみ心そのものの高い広い微妙そのものの波動圏にも行き来できる心を持つようになることです。現在の地球の状態で言えば、アメリカから種々進化して動物になり、人類にまで進化してきたこの進化を、今度は心の世界の進化にむけかえてゆく、即ち、物質の世界と心の世界とが縦横十字に大調和して、神のみ心が全き姿をそこに現されようとしているのです。

しかし、神のみ心がまともにこの地球に現れるということ
は、非常に善いことではあるが、その力が現れる前に、不調和な状態にしがみついている人間が、その波動の調整に大変な苦

しみを味わう。それがキリスト教でいう最後の審判ということなのです。一瞬に神のみ力がそのまま現れたのでは、地球の古代時の文明のように肉体人間の世界が急速に浄化して、形の世界が消滅してしまう。つまり三次元の世界が無くなって、急速に高次元の世界に移り変わってしまうということになるのです。

そこで高次元世界の波動に合わせて、しかも三次元世界に現れている人間が必要になってくるのです。こういう人たちは、仏菩薩、または天使というのです。神々や宇宙天使は、こういう人たちを一人でも多く養成しようとして、今盛んに働いていらっしゃるのです。

私たち神人は、神のみ心を受けて、地球人類の救済のために世界平和の祈りや、神聖目覚めの印等を組むことにより、高次元の光をこの肉体界に降ろし、地球人類を消滅しようとする不調和の想念波動を浄め、消滅から地球人類を守り、人々が内なる神聖に目覚められるように手助けし、大調和の世界を現わそうとしているのです。

私たち神人は、個人としては自他一体感、愛を深めるとともに、一方地球人類救済の担い手として役割を果たそうとしているのです。

そして今現在、「地上に降り来る輝かしい地球平和の大変革」の時を迎えようとしているのです。